

## 自然発火性試験結果報告書

ご高承のことと存じますが、この測定値は、以下に記載の方法と条件のもとで測定したものです。したがって、次の点にご留意下さい。

- (1) 測定値は、組成の変化および微量の混合物、粒度、水分等によって変わることがあります。
- (2) 測定条件と実際の取り扱い条件との違いを考慮の上、測定値をご利用下さい。

1. 試験実施日 2007年 7月12日～ 7月23日
2. 試験場所 株式会社 住化分析センター 愛媛事業所 安全工学研究室
3. 試験実施者 山内 正司
4. 試験物品名 キヌカ
5. 試験条件
  - (1) 装置 自然発火性試験装置（島津製作所製）SIT-2型
  - (2) 初期温度 60℃
  - (3) 雰囲気ガス 空気（2mL/min）
  - (4) 使用セル 固体用
  - (5) 紙ウエス 伊予資源株式会社製 ワイドワイパー

## 6. 試験結果

表 1 に試験結果、図 1-1, 1-2 に測定チャートを添付する。

表 1. 試験結果

試料名	初期温度 [°C]	試験結果	図 No.
キヌカ (キヌカ/紙ウエス =0.8831g/0.1785g)	60	空気に切り換え後、約 4 日間 顕著な発熱は見られなかった。(※)	1-1 1-2

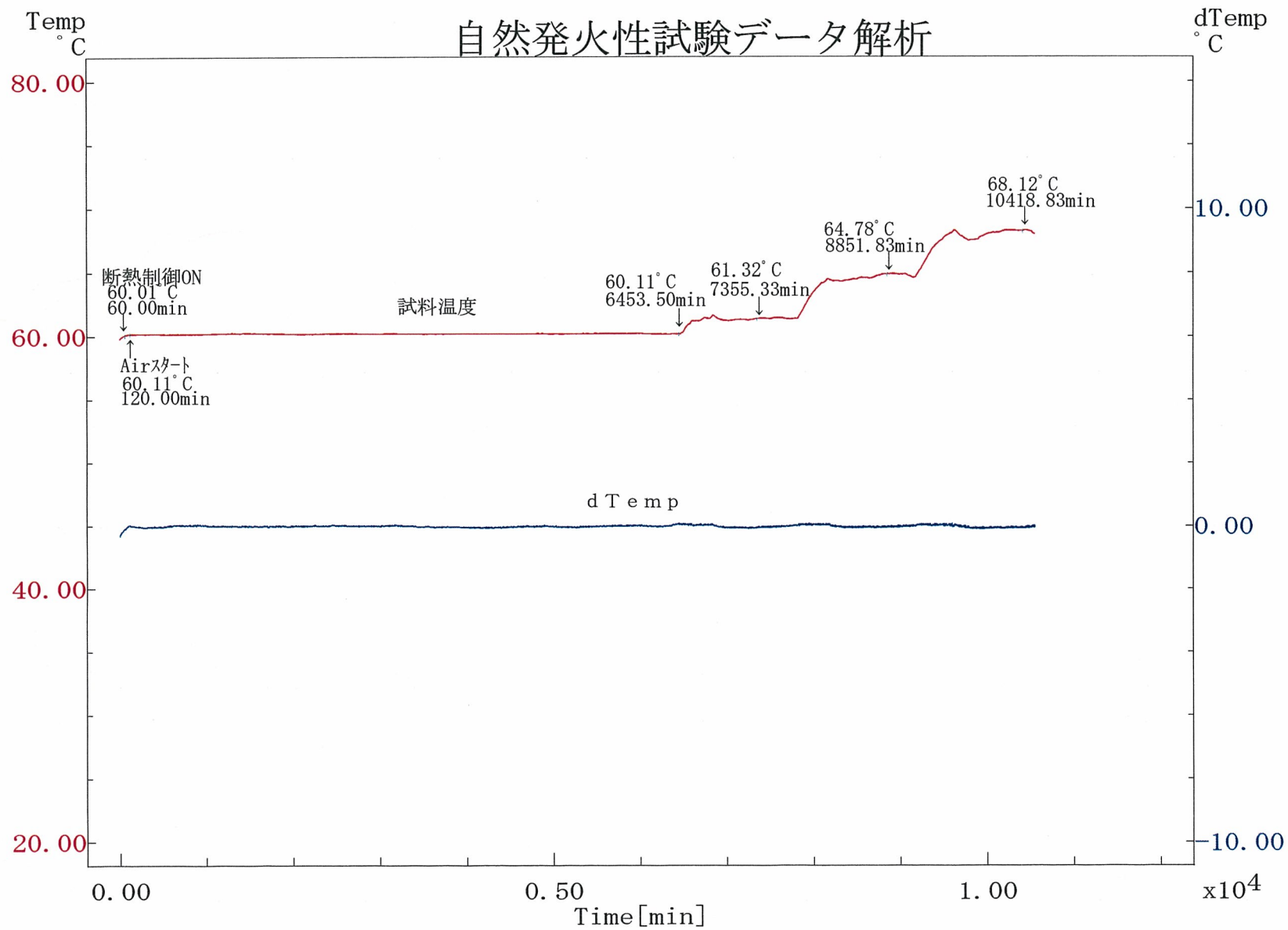
※ 本試験では7日間様子を見たが、4~7日目にかけて3段階の温度変化が見られ、68°Cまで上昇した。(図1-1)

試験後の試料の写真を写真1-1, 1-2に添付する。

試験は、紙ウエスを適度に切り、それにキヌカを含浸させて試料の温度変化を観察した。

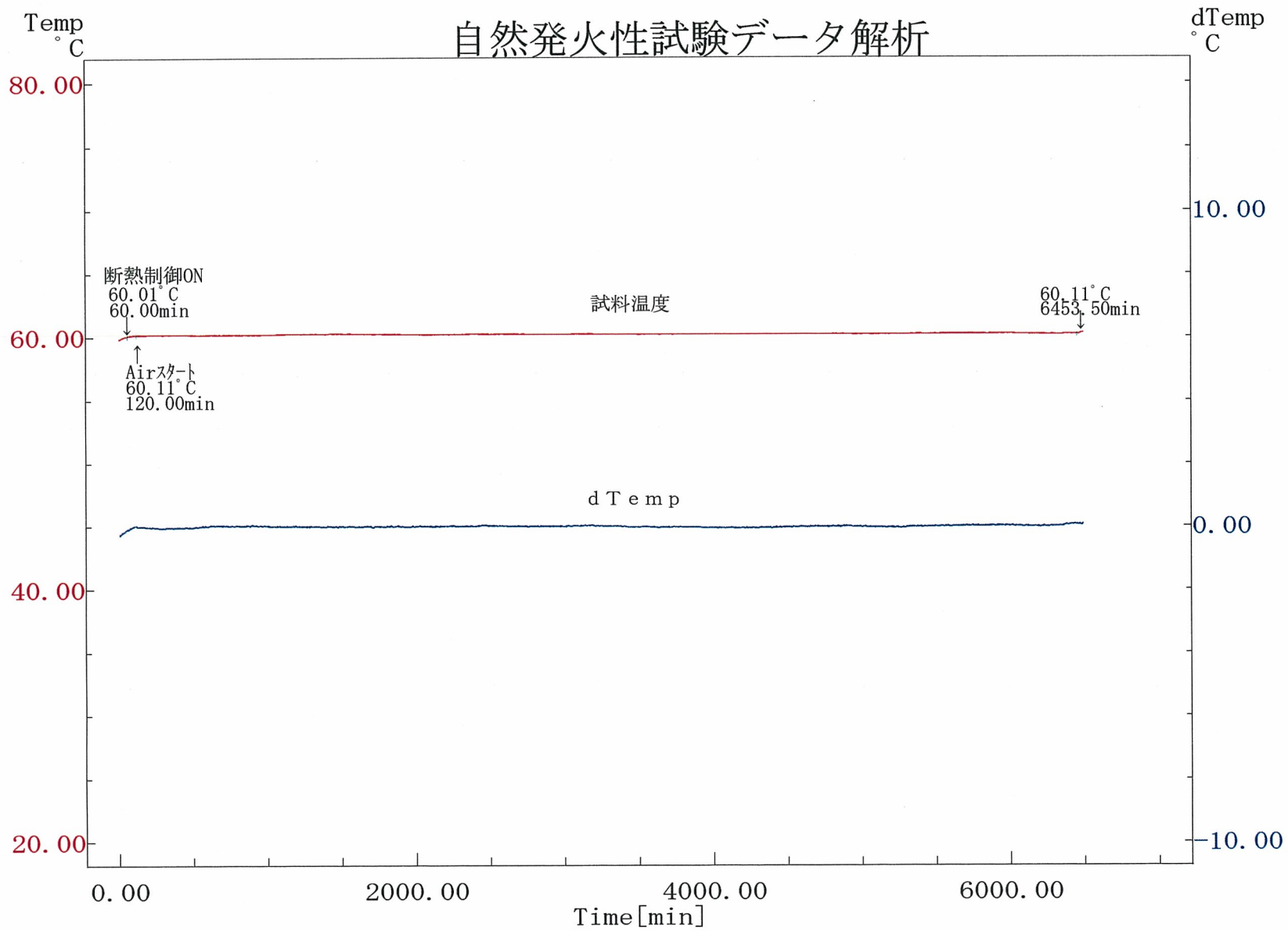
また試験前後のキヌカ重量は、(試験前0.8831g) → (試験後0.8465g)であった。

自然発火に至る場合は、一旦発熱が検出されると、そのまま温度が上昇し続け、やがて急激な発熱現象が見られるが、今回の4~7日目の現象はそのような現象ではなく、7日間経過後のウエスもこげ等は見られなかった。



ファイル名: 07071205.D00  
 収集日: 07/07/13  
 試料名: キヌカ+紙ウエス  
 試料量: 883.1 [mg]  
 ガス種類: 空気  
 ガス流量: 2.000 [ml/min]  
 オペレーター: 山内正司  
 コメント: ch1, 紙ウエス 178.5mg  
 初期温度: 60.00 [°C]

図 1-1. キヌカ(紙ウエスに含浸させた状態) のSITチャート [60°C]



ファイル名: 07071205.D00  
 収集日: 07/07/13  
 試料名: キヌカ+紙ウエス  
 試料量: 883.1[mg]  
 ガス種類: 空気  
 ガス流量: 2.000[ml/min]  
 オペレーター: 山内正司  
 コメント: ch1, 紙ウエス 178.5mg  
 初期温度: 60.00[°C]

図 1-2. キヌカ(紙ウエスに含浸させた状態) のSITチャート  
Air流通開始~4日後までの拡大図 [60°C]



写真 1 - 1 . 試験後の状態



写真 1 - 2 . 試験後の状態 (拡大)